

Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

109

2022

秋 季 号



日本大学芸術学部
校友会ホームページ

8つのアート 1つのハート

N  **U**
Nihon University College of Art
Art

日本大学芸術学部

CONTENTS

令和4年度 芸術学部校友会総会開催報告	02
林 真理子 理事長誕生	03
卒業生ストーリー「今、ここで」	05
江古田会ニュース	
東京江古田会・宮城江古田会	07
佐賀江古田会・ふくしま江古田会	08
熊本江古田会・北海道江古田会	09
岡山江古田会・鹿児島江古田会	10
福岡江古田会・石川江古田会	11
山形江古田会	12
日本大学芸術学部校友会各支部（江古田会）連絡表	12
学科主任のごあいさつ	13
学科ニュース	
写真学科・映画学科	15
美術学科・音楽学科	16
文芸学科・演劇学科	17
放送学科・デザイン学科	18
日々是好日、会長日記	19
松島先生のひとりごと	19
ウンレン・ブンレン 運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中	20
学部の優秀者	21
校友会からのお知らせ	22
編集後記	22

日芸祭のご案内

2022 11

3・4・5
THU FRI SAT



今年度の日芸祭は学生のみでなく、一般参加可にて11月3日～11月5日に開催予定です。新型コロナウイルス対策として、人数制限ありの事前予約制での実施となります。詳細は決まり次第芸術学部HPにて案内されますので御確認下さい。

校友会ブースがいつもの場所とは変更しておりますので、校友会のホームページを併せてご覧ください。



令和4年度 芸術学部校友会総会開催報告

令和4年度 日本大学芸術学部校友会総会が令和4年6月25日(土)午後5時より開催された。コロナ禍の影響で会場を日本大学校門会館とし、感染拡大防止を徹底しての開催となった。はじめに、日本大学の新体制に足並みをそろえた、校友会の新体制と改革へ向けての挨拶を皮切りに、会務報告、決算報告、監査報告、予算案審議へと進み、いずれも拍手を持って承認された。最後に日藝100周年を記念して制作されたサイト「日藝CROSS」の紹介が併せておこなわれた。なおコロナ禍のため、総会後の懇親会は今年も中止となった。

令和4年度(2022年度) 予算

収入之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
本部よりの会費	準会員 4,000円×3,465人=13,860,000円 正会員 3,000円×50人=150,000円	14,010,000
校友会終身登録費	5,000円×300人=1,500,000円	1,500,000
雑収入	新年会会費、お祝い金等	950,000
収入利息		1,000
合計		16,461,000

支出之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
総会費		200,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	80,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	10,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	90,000
通信費	会報発送(在校生・卒業生) 総会・会費請求切手 他	5,000,000
補助費	学科同窓会・幹事会・日芸祭補助 支部補助(20支部×3万円) 支部総会出席祝儀	1,150,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日大スポーツ振興寄付	340,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	2,140,032
人件費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,600,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
旅費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	300,000
租税公課	利子税	1,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	200,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース(21,824円)	550,000
本部役員会費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交流費	新年会・他学部校友会交際(13学部総会祝儀×2万円)	200,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	167,000
雑費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	150,000
支払手数料	銀行支払手数料など	50,000
退職積立金	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)	300,000
減価償却費		62,968
合計		16,461,000
特別会計	芸術学部創設100周年お祝い金 前年度特別会計の剰余金	900,000



日本大学芸術学部HP
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/>



日本大学芸術学部校友会HP
<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

林 真理子 理事長誕生

私を応援してください

この度、令和4年7月1日付けをもちまして、日本大学理事長を命ぜられ過日着任をいたしました。

私が芸術学部に入學したのは約半世紀前のことです。私には将来マスコミの仕事に就きたいという夢があり、それをかなえるべく山梨の高校を卒業後、江古田にある芸術学部に入學をいたしました。

在学中はクラブ活動に励み、たくさんの友人たちから刺激をもらいました。素晴らしい教授たちにご指導いただいたことも忘れられません。当時の芸術学部はよく取材されるほどの華やかな活気にあふれていました。

一生のうちでもっとも大事な時期ともいえる、この4年間を日本大学で過ごせたことは私自身にとって大きな誇りであり、自信にもなりました。

卒業後も多くの場面で日本大学の卒業生と知り合い、時には仕事をともにすることもあり、改めて日本大学のスケールの大きさを知ることが出来ました。

この貴重な経験を分野は問わず、多くの学生の皆さんに経験してもらい、日本大学に入學してよかったと思えるように理事長としての職務にまい進したいと考えております。

度重なる不祥事により失墜した日本大学の信頼を回復するために全力を尽くします。

どうか皆さま方、同窓生である私を応援してくださいますようよろしくお願いします。

日本大学理事長 林真理子



【氏 名】 林 真理子（はやし まりこ）
【生年月日】 昭和 29 年生まれ

【経 歴】

昭和 51 年 本学芸術学部文芸学科卒
昭和 57 年 エッセイ集『ルンルンを買って
おうちに帰ろう』を出版
昭和 61 年 『最終便に間に合えば』『京都ま
で』で第 94 回直木賞を受賞
平成 7 年 『白蓮れんれん』により第 8 回
柴田錬三郎賞を受賞
平成 10 年 『みんなの秘密』により第 32 回
吉川英治文学賞を受賞
平成 12 年 直木賞選考委員に就任。ほか、
数々の文学賞の選考委員を務
める
平成 23 年 フランス政府よりレジオンド
ヌール勲章シュヴァリエ受賞
平成 30 年 紫綬褒章を受章
令和 2 年 菊池寛賞を受賞

【その他の活動】

日本文藝家協会理事長、吉川英治国民文
化振興会評議員、新潮文芸振興会理事、
エンジン 01 文化戦略会議幹事長、3.11 震
災孤児遺児文化・スポーツ支援機構理事



マリコ書房（YouTube チャンネル）
[https://www.youtube.com/channel/
UCUUABmT1NxSBKclA4pvfHJQ](https://www.youtube.com/channel/UCUUABmT1NxSBKclA4pvfHJQ)

卒業生ストーリー

「今、ここで」

映画学科 S42年度 1967年度卒業

村山利夫



「我が家での歓迎会」(本人後列右から1人目)



「初のメール(手紙と写真)」

ここから始まった日芸への道

浪人時代、苦手な英語を楽しく学ぶ方法は無いものかと始めたのは海外文通であった。相手はオーストラリアの職業・年齢不詳の女性。投函から2か月後の4月14日に着信した。開封した手紙には「彼ら3人(彼女と父親・彼女の看護婦仲間)は8月3日、日本に観光船でやってくる!」と。東京港停泊中の3日間、東京都内名所案内の後、YUKATAに着替えてもらっての歓迎会。私の国際交流はこうして始まった。17歳の私にはあまりにも感動的な出会いとお別れ。彼女らを晴海の岸壁で見送った私は「よし、今度はこの俺が豪州に行って再会するぞ!」と決意した。目標は設定すれば半分は叶ったようなものという。

日芸に進路変更させたモノ

北海道の大地で農学部を目指していた私。



劇的な体験のその後、脳裏に浮かび上がったのが高校の修学旅行時に購入した8ミリカメラだった。そう、何も兄が進んだ理系の道を追うばかりが能ではない! 工業

高校で学んだ理科系科目はやがて光学・音響学・化学などが必修の映画学科技術コースでの単位取得に大いに役立つことになる。幸いにも自我自立に目覚めた翌1964年(昭和39年)の受験ではあこがれの映画学科に合格した。当時の日記には競争率は20倍であったと記されている。「撮影を武器にオーストラリア、ひいては世界を目指す」という目標は設定された。

映画学科の教授陣と学生生活

ともあれ、新たな世界に一步を踏み出した映画学科には渡邊俊平主任教授をはじめ、牛原虚彦教授、大竹教授、研究室には八木信忠、大須賀武、他多くの先生方が私たち学生を日本を代表する映画人に育てる環境を整えておられた。しかし、一生の仕事として選んだつもりの「映画の道」は、はたしてベストであったか不安を感じていた。そんな私に映画鑑賞批評担当登川直樹教授がおっしゃった95%は「熱意と努力」、残るは才能」とのアドバイスはその不安を払拭し、今でも人生の教訓として心に焼き付いている。

東京オリンピックの開催された1964年当時、研究室では学生に「映画関係のアルバイト禁止」のお趣書が出ていた。ギャラが高額なため、入れ込み過ぎでのドロップアウトを食い止めるための策という。無理して進学させてくれている親を思うと遊ぶどころではない。授業は殆ど休まなかったこ

とが、後に大きなチャンスをもたらすことになる。

クラブ活動はもちろん海外研究会を選んだ私。授業がない日でも部室に出かけ渡航のチャンスを捕まえる「熱意と努力」は忘れなかった。海外渡航など夢のまた夢の時代であったが部員名簿に名があっても会ったこともない伝説的先輩がいた。「海外渡航中」とあり、その一人が美術学科のあの高松豊さんである。彼はゴッダンの作品見たさにタヒチを目指し、休学してマグロ漁船員となって夢を叶えたのだ。これは私にとって大いに刺激となり、励みともなった。

返還前の沖縄親善訪問

ラジオ沖縄アナウンサーとして活躍中の八木秀文放送学科先輩を訪ねて1学年末の春休み1965年3月、「日芸海外研究会沖



八木秀文先輩

日芸海外研究会
第一次沖縄親善訪問団(那覇港)

縄親善訪問団)6名の一人としてパスポートに代わる身分証明書を携えての参加となった。八木さん(福島県出身)の私たち後輩への指導は「今の本土の繁栄は沖縄の犠牲によることを忘れるな!」という非常に厳しいものだった。協賛企業からクレヨン、画用紙、フィルムなどを、東京都からは五輪

関連施設建設工事記録映画を借用し、南部戦跡慰霊・竹富島映画会、名護市屋我地島ハンセン病施設「愛楽園」での絵画教室、舞踊披露など涙ながらの深い親善「海外」交流となった。

卒業制作

4年次の卒業制作は人形アニメーションを選び、当時学研のアニメ制作で活躍中の先輩「岡本忠成」氏のアドバイスをいただきながら人形まで全て自前で制作した「鏡が池のおはなし」も、まもなく録音段階を迎えていた10月、研究室から海外取材のアルバイト



トが舞い込んだ。

ついに実現した海外渡航

日本の鯉・鮪漁船の船主に南太平洋に広がる漁船補給基地を紹介するドキュメンタリー映画撮影の仕事である。取材は45日間。この期間は3年次までに一科目でも落としていたら、避けて通れない卒業試験期間だった。140単位取得済みの学生は私一人だったようだ。1968年1月2日、羽田空港に親戚、友人の盛大な見送りを受け出発。旅はハワイを皮切りにタヒチ、フィジー、ニュ



ージーランド2港、オーストラリア7港を取材するもの。大学4年間、諦めかけていた私の目標はついに実現した。

この貴重な海外経験は就職してからのキャリアに大きな実績となって花開く。（このチャンスを与えて下さった映画学科研究室の先生方に改めて心より感謝申し上げます。）

1968年卒業、

(株)日本技術映画社入社

「一人前のカメラマンになるには10年を覚悟するように」と先輩助手から言われ、ならば「自分は半分の5年で!」を新たな目標とされた。

当時の産業映画界では社員制度は殆どなく契約制度が主流で戸惑いを感じたが、創立5年の若い会社の撮影部には岩波映画社・日映新社からの移籍カメラマンや、日芸出身の助手が多く在籍していた。新人の私は9時には出社し、先輩方の机を掃除したり、機材の点検、ラッシュ試写があれば許可をもらって拝見し、35mm映写機の操作まで、勉強になることは何でもマスターした。その甲斐あって何と入社2年目の秋、日本技術協力事業団（JICAの前身）企画の国際技

術協力を日本国民向けに広報する映画の助手に抜擢された。結婚披露宴の日程をキャンセルして「仕事」を選んだ私はフィアンセから初めてピンタを食らった。

目標を持って取り組んだ その後の人生

撮影・プロデューサーとしての主な業務経歴

■処女作：日軽アルミ企画 新宿新都心のカーテンウォール（卒業制作で体験した人形アニメのコマ撮り技術を記録映画で実践）

■横浜博覧会東京電力館受注（会社初の博展業務受注）

■スミソニアン共同制作「日本の庭園」（米エミー賞）エグゼクティブプロデューサー

■1997～2014 国際産業映像祭（仏、独、蘭、加、中、米）審査員

■映像文化製作者連盟 常任理事兼国際委員会副委員長

■トヨタ白川郷自然学校建設プロジェクトコーディネーター

■白川村第5・6次総合計画策定コンサルタント

■羽村市生涯学習センターゆとろぎ総合コーディネーター

■福生市副市長（2012年7月～2014年6月）

■国立音楽大学監事（2015年4月～2019年3月）

現職（令和4年8月1日現在）

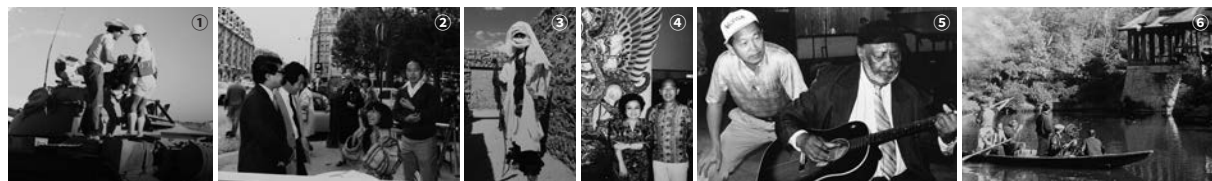
■有限会社トシデア代表取締役社長（映像・展示・イベントの企画・制作）（無人航空機パイロット2級、DJ・キャンパスベジャリスト）

■NPO法人多摩の青少年を育てる会理事長

■西多摩百景写真展実行委員会会長

■福生市景観審議会委員

■(株)QOL たばやま 取締役 以上



①TBS報道特番「アラブ縦断」
エジプト軍全面支援スエズ運河渡河作戦

②電気事業連合会企画「明日を考える世界」取材
バリエで岸恵子さんにインタビュー

③鹿島企画「アルジェリア紹介映像」
サハラ砂漠の勇者トゥアレグ族

④外務省企画「明日に向かって」
TVインドネシアキャスターと

⑤スミソニアン共同企画「River of Song」制作
Robert Rockwood Jr. ギター演奏収録

⑥スミソニアン研究所との共同制作
「夢想 Dream Window」修学院離宮の各庭園

⑦国際科学映像祭審査（エッフェル塔上）

⑧仏科学映像祭授賞式での大須賀武社長

⑨北京科学映像祭表彰式

⑩すばる望遠鏡（ハワイ・マウナケア山頂標高4200m）
ドローン活用は今後平和利用に徹して積極的に
取り組む対象

余談

先日、何の気なしに本棚を整理しておりましたら、ひょっこり「東京人 2000 年 6 月号」が飛び出してきました。われらが日芸仲間で大新理事長に就任された林真理子さん。粹な世界のインタビュアーとして特集記事が掲載されておりました。今はかつてない大改革の期待を背負っての登場です。これも何かのご縁とはかり表紙の写真を入れました。是非とも狭くなった私たち日大関係者の肩身をひろーくしていただきたい! そのためには私たちも微力ながら応援活動したい! そんな気持ちで今回のストーリーを書かせていただきました。



東京江古田会

■日本大学芸術学部校友会東京支部「東京江古田会」が会発足致しました。

6月26日芸術学部校友会総会において承認いただき、7月30日桜門会館において発足総会を開催し正式な支部長及び役員が選出されました。また、校友会と木村学部長よりお祝金を頂きました。ありがとうございます。



■支部長ご挨拶

先日7月30日をもちまして東京江古田会支部長に選出されました吉川 元（よしかわ はじめ）です。江古田会田上会長から昨年関東圏に江古田会支部がないのでは是非作りたいとお話をいただき、現在のチャーターメンバー達と共に発足にむけて作業してまいりました。名称は会の趣旨である東京近郊の交友のための会ですので関東江古田会が正しいのですが少し危ない感じがしますので「東京江古田会」にさせていただきました。私は昭和49年放送学科に入学してから学生・アルバイト・技術員を経て44年間江古田にお世話になりました、人生の半分以上通った街です。その街から一昨年、無事卒業できました。

本当に江古田の街には郷愁だけでなく感謝の気持ちでいっぱいです。この「東京江古田会」が発足することによって、関東近郊の校友の皆様のつながる潤滑剤になることができれば幸いです。

現在、懇親会に向けて準備をしております。是非入会のご連絡をお待ちしております。

■お問い合わせ：東京江古田会事務局：

生井 将雄（なまいまさお）昭和59年度卒（演劇学科）

Email: tokyo.ekodakai@gmail.com

宮城江古田会

■音楽科卒の高橋咲千子です。学生時代とても印象的だった先生は大勢いるのですが、クラシック界だけでは関わらなかった川上央先生（現芸術学部次長）が、わたしの人生にとって影響を受けた先生です。ひょんなことから、ピアノ科では取らない情報音楽の授業を受けることになり、今まで見たこともないパソコン言語やそれによって織りなす音楽等、今まで学んでこなかったものをたくさん学ばせて頂きました。過去の音楽の分析等だけやってきた私にとって、これからの音楽の可能性というものに対し、学生の頃触れられたということは、とても大きかったと思います。3年前の日藝校友会総会のイベントで、ピアノ演奏をさせていただき、川上先生と久しぶりにお話してきたことに、ご縁を感じずにいられませんでした。

今、私は仙台を拠点に音楽活動をしています。その活動の一環で、日藝卒の音楽家・美術家を中心に集め、また、地元の芸術家とのコラボレーションを企画し、「日芸コンサート」を行っています。これも学生時代に、日藝は自由！どんな音楽、芸術も吸収し、環を広げていきたいという、想いが根底にあったからです。これからも、この宮城から「日芸コンサート」が全国へ広がっていくように、活動していきたいと思っています。



■7月30日に、宮城江古田会総会及び懇親会が開かれました。今回初の試みで、在校生の放送学科4年の八島菜々巴さんに参加して頂きました。また、放送学科卒の大川原儀明氏を迎え、とても有意義な時間となりました。八島さんからは、コロナ禍で2年間授業もオンラインで友人ともなかなかコミュニケーションが出来ないということ、日大という名前を出しただけで就職の面接でざわついたということ、等を伺いました。私の経験として、日藝の素晴らしさは、他学科との交流により、その後の人生の糧となることです。参加したOB一同、この現状を何とかしなければいけないという想いで一致しました。

（芸術学研究科音楽藝術専攻前期課程H22卒：高橋咲千子）

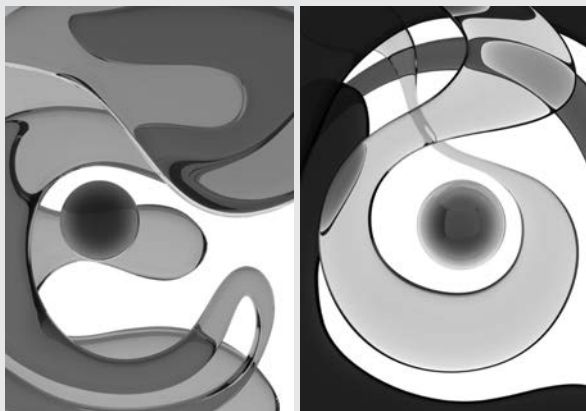
佐賀江古田会

佐賀江古田会の近況として、明暗のビッグニュースをお伝えします。

まず、嬉しい話題は、昭和51年美術学科入学の朝重利文（旧姓瀧口）さん64歳が現代美術家協会主催の全国公募展「第78回現展」に入賞されました。

仕事では全国のデザインプランナーとして多岐に渡り活躍されていますが、それとは別に、今年になって現代美術への創作意識が高まり初心に帰って制作したそうです。現代美術の展覧会に出品したのは、27歳の時以来、37年振りだけに喜びもひとしおのようです。富士フィルム賞に輝いた作品は、コンピュータグラフィックスの「クロスオーバー」。

世界は、すべての人や物の境界がなくなり平和に暮らせるような感覚を作品に込め、大きく曲がりくねる線や円で表し、色合いも濃淡が緩やかに混ざり合い融合していく様を表現したそうです。



悲しいニュースは、佐賀江古田会、前会長の音成日佐男さん（放送45年度卒）が、3月31日に73歳で逝去されました。音成さんは、総会会場のあけぼの旅館の社長でジャズと落語と江戸文化をこよなく愛されていました。佐賀江古田会の総会は、司会の音成さんが扇子に書いたネタをユーモアに富んだ語りで話されるのを聞くのがハイライトで、学部長、校友会長、ゲスト、会員の皆がこのタイムを一番の楽しみにしていました。突然の死は、信じられない気持ちです。心からご冥福をお祈りいたします。



ふくしま江古田会

ふくしま江古田会に音楽学科出身の女性二名が入会し2年ぶりに開催した総会に顔を出してくれました。今年度は3月12日に郡山市ミューカルがくと館で音楽コンサートを予定しています。新会員となった二人によるピアノと電子楽器テルミンのコラボやオカリナ、ウクレレ演奏に琴と尺八の和楽器も登場させたいと妄想は膨らんでいます。



今年は藍染をやりました。郡山女子短大で藍の魅力を追及している齊藤教授（総会写真右）が江古田会の会員であることからこの企画が実現しました。SDGsの精神で使用しなくなった衣類などを藍染で再生させ、参加者から「捨てようとしたTシャツが蘇った」と喜びの声をいただきました。



今後は多くの会員に参加して欲しいと考えています。藍色に染めた和紙に筆でしたためた書をデザインするなどアート魂を見せてください。ふくしま江古田会は常に新しい活動を模索していきますので「こんなのどうでしょう」とご意見をお寄せください。090-5353-1820 会長の酒井までお願いします。

熊本江古田会は今年度も総会は開けませんでした。寂しい限りです。

ところで先日、手元に日芸百周年を記念する本が届きました。この本に私にとって嬉しい記載がありました。校友の皆様は芸術学部マークあの楕円を二つ重ねて目玉にも見えるデザイン、どう思いますか。なかなかいい感じです。それを作ったのは1940年に日大専門部芸術科美術科で講師をしていた画家の海老原喜之助だったのです。なぜ私が嬉しいと書いたのか、それは鹿児島出身の海老原さんが戦後、熊本に画塾「海老原美術研究所」を開設、戦後熊本の美術界をけん引した人で、今でもその塾は「エビ研」と親しみを込めて呼ばれています。実は私は小学生から中学までそのエビ研でヘタな絵を描いていました。そして写真学科に入学が決まった昭和40年（1965年）3月、実家の料理屋から「海老原先生が来てるよ」と連絡があり久しぶりに話をしました。そして「君はどここの大学に行くのか」と聞かれ「日大芸術学部の写真です」と答えたら、「あの日芸のマークは俺がつくった」と話されてビックリしたことを覚えています。熊本江古田会の世話役をしている関係でこれまで、学校や校友会関係の方々には海老原喜之助という人からこんな話を聞いた事があると伝えてはいましたが、すっかり忘れていたところ日芸百周年の本にそのくだりがあり本当にウレシイ出来事でした。

また、同年には芸術科の紋章を制定し、学生や教職員のバッジ、各分科旗に使用。図案を制作した洋画家の海老原喜之助によれば、天体の運行図にヒントを得た紋章は、横長の楕円は運行を表して芸術の時間面を、中央の円形は位置を表して芸術の空間面を象徴している。この図案は日本大学の「日」の文字に通じるとともに、全体の感じは人体の中心であり英智のシンボルでもある眼を連想させる。



海老原さんは1923年渡仏して、藤田嗣治に師事するなどして活躍した画家で詳しいことはネットで調べてもらえばたくさん出てきます。

熊本では今年の春、県立美術館で「エビハラがいた時代」という展示会が開かれ、多くの作品と共に「エビ研」の活動も紹介されていて懐かしく見て回りました。

日芸のマークは百年を迎えても斬新で飽きのこないデザインだと思います。その海老原喜之助氏に関わりが持ったことと日芸で学べたことに感謝しています。

熊本江古田会 会長 奥村隆志（写真 昭和43年度卒）

北海道江古田会は、今年も新型コロナの影響で総会及び活動が出来ていませんので、今回は、私、氏家曹一の学生時代のエピソードを少しお話ししたいと思います。

私は、昭和49年、放送学科に入学しました。

札幌から20時間、鉄道で上京し、右も左もわからない中、有意義な学生生活を過ごすにはとりあえず何かクラブに入ろうと、最初にできた友人の和歌山出身M君と面白半分茶道部に名前を書いて説明会に行ったところ、すでに入部したことになっていました。してやられたな！と思いながらも、かわいい女子学生もいたので（高校は男子校だった）、そのまま入部、ほどなく1年生ながら部長になり、その後の交友関係が大きく広がることになったのです。

それからの毎日は、いちおう学問に励む傍ら、部活と、先輩に誘いこまれたマージャン（小学生からやっていた）が全てになりました。間借りの6畳にはいつも誰かがビールの空き箱ベッドに寝ていて、テレビは質屋との間を行ったり来たりして飲み代に変わりました。一度などは、故障したテレビを質屋に入れるために、修理を頼んだ電器店に友人を人質に置いて、質屋にテレビを運び、戻って修理代を払い、飲んだこともありました。

案の定、4年時には、もう1単位も落とせない状況になっていましたが、そんなある日、学校で久しぶりに会ったK君に誘われ、何も考えずマージャン店に行き、うつつを抜かしていたところ、別の友人Y君が突然現れて、「おまえこんなところで何やっているんだ！」・・・実はその日は、今でも忘れられない「西洋美術史」の大事な試験日だったのです。今と違って携帯電話などない時代、Y君は私が試験場に現れないことを案じ、終わってすぐに私を探し、店に駆け付けてくれたのです。

これは大変だ！！Y君は固まっている私を引っ張って西洋美術史の教授を部屋に訪ね、「出席はきちんとしていたので、何とかありませんか？」と一緒に頭を下げてくださいました。結果、後日レポートを提出、単位はBを戴きました。

危機一髪！私は、無事卒業することができ、現在に至ります。



（写真は愉快的なマージャン仲間の50年後。右から、演劇学科ミュージカル研究会F君、放送学科茶道部の不肖私、文芸学科コーヒ研究会N君、放送学科フォークソングクラブY君）

岡山江古田会

■岡山江古田会では、毎年「日本大学芸術学部校友会作品展」を行っています。しかしコロナの影響で、2年連続での開催中止を余儀なくされました。そのような状況の中でこの度、2022年6月28日から7月3日、感染防止対策を実施しながら無事、作品展を再開できましたことを会員一同感謝しております。

幅広い年齢層の会員が卒業後も繋がりを持ち、お互いに切磋琢磨することで、作品への取り組みを通して学生時代のように人としても成長させて頂いているように感じております。

素晴らしい先生方や共に学ぶ友人達に出会えた伝統ある日本大学芸術学部の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

岡山江古田会副会長：垣内麻見



■日本大学芸術学部創立百一年目を迎えた今年、日本大学の理事長が芸術学部出身の林真理子さんに交代となった。当面の山積する難題がある中、新しい学生本位の時代を構築して下さるものと信じている。林真理子さんとは卒業年度が同じなので同じ時代を江古田で過ごしたはずだが、文芸と写真では接点もなく、結果マスコミでしか知り得なかった。それでも親近感大だ。原点は中学三年生の時、いじめっ子から逃れるために勉強を頑張ったという。いじめっ子を踏み台に今があると言っても過言ではない。現役およびこれからの新入生たちは日芸を踏み台に多くの出会いを大切に世界に飛び出してもらいたい。

岡山江古田会会長：竹本栄吉

鹿児島江古田会

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」が世界自然遺産条約に登録された昨年と異なり、今年は、台湾有事イコール日本有事がささやかれ南西諸島は物騒な空気が漂っています。

鹿児島江古田会は19年前に発足しました。ほかの地区に比べるとかなり遅れてのスタートです。男女合わせて18名。20代から70代まで幅広く出身学科も全てに亘っています。総会では、お越しいただく学部長や校友会の方々、九州各地の江古田会の方々との交流をいつも楽しみにしています。2019年を最後に鹿児島江古田会は新型コロナの影響で総会が中止となっていました。しかし、今年は11月に予定しています。

芸術学部出身者の特徴はそれぞれに大学で学んだ技能を活かせることです。写真家、アナウンサー、デザイナー、演出家、陶芸家など枚挙にいとまがありません。中には私のように奄美大島でエビ養殖に勤しんでいるものもおりますが。

私たち鹿児島に住む者にとって、陶芸家の発表会や方々のローカルニュースでのアナウンサーの登場は励みでもあります。芸術学部出身者の力を示すイベントをやりました。コロナ禍の直前、映画学科出身のカンツォーネ歌手・加藤ジュンコさんを招いて、桜島を眺めながらの昼と夜のショーは圧巻でした。料理長は、2020年世界料理オリンピックの銀メダリストでした。

現在、企てていることが一つあります。霧島市在住で美術学科出身の平原志保さんが、以前、台風で壊れてしまった霧島神宮駅前の猿田彦像を復元しようとしています。彫刻専攻だった平原さんの思いです。母校の力を借りて地域芸術に貢献しようと、只今、奔走中です。

私の職場の同僚のお嬢さんは芸術学部在籍しています。NHK全国高校放送コンテストで上位に進出し映像に目覚め、一昨年に入学し現在3年生です。この2年間はほぼオンラインで過ごしたので3年生になってようやく大学生になれたと語っています。授業にもアルバイトにも、そしてアルバイト明けでの友人との回転すし屋のビールにも充実感を感じているそうです。「芸術学部の学生は変わった人物が多い。刺激になる。」というのが感想です。ちょっと変わった人の多い芸術学部の風景は昔も今も同じようですね。しかし、その変わった人たちの集まりの混沌の中から新しいパワーが生まれてくるのも事実です。

私たち鹿児島江古田会の役目は卒業生の親睦と、母校の発展を期すべく若者にそのすばらしさを伝えることです。まだまだ至りませんがその務めを忘れずに活動したいと思います。

<鹿児島江古田会 事務局 堀之内隆>

ご挨拶

各江古田会の会員の皆様いかがお過ごしですか。

この度、私岩永隆（昭和38年芸卒）は山田重寿前会長の任期終了に伴い役員会議にて小生が引き継ぐ事になりました。

福岡江古田会は、九州地区では熊本に続き、当時の8名の有志により、100名弱で発足しました。

現在登録会員数は約40名ですが、私はこれから2年間の任期満了迄、皆様と共に、会の発展を願っています。

会員の皆様！会員である事を無視しないで、

会員である事に誇りを持ち

会員としてこの会を貴殿のものにして下さい。

芸術を学んだ皆様！センスを生かして、ビジネス、趣味に遊びに友情の同志としてこの私を叱咤して下さい。

会の存在を知らぬ後輩も多くいるのでは？

すでに会員である「あなた!!」もお誘いして下さい。

そして皆様と共に、会の発展を慶びましょう!!

現在、会としての主な行事は

◎アート展

◎懇親会

◎旅行会

などですが、コロナウイルスの世界的猛威に犯され休眠中という事に……

皆さん今後元気でお逢い出来る日を楽しみにお待ちしております。



福岡江古田会HP

<http://onlinegallery.goo-photo.com/>

福岡江古田会アートオンライン展サイトを公開しています。
<http://onlinegallery.goo-photo.com/information/sample-information1>

●演劇学科現役生が能登で舞台制作

日芸演劇学科の現役生有志が能登に短期滞在し、人々とのふれあいを通して感じた発見を舞台で表現するプロジェクト「ノトゲキ」が8月上旬に行われました。石川江古田会からも支援させて頂き、8月12日の舞台発表を観劇・取材してきました。

発起人の演劇学科OB 瀧腰教寛さん（俳優・東京在住）は中島町（現七尾市）出身。中島町は演劇との関わりが深く、仲代達矢氏が設立に深く関わった、日本唯一の屋外と舞台が一体になる能登演劇堂が町のシンボルです。



故郷である能登の魅力と演劇を繋げたいとの思いから、2019年から「ノトゲキ」を立ち上げて4年目。途中2回はリモートでの開催になりながらも、今年

は3年ぶりに能登に滞在。演劇学科の学生6名と一緒に、農業体験や地元のお祭りに参加するなど、能登の生活に触れながら制作を行いました。

能登を別の星のように感じたという思いを、いきなり現れた宇宙人と姉妹との心の交流という戯曲「蛭」でビュアに表現しながら、色々な意味を持った象徴的



な「蛭」が橋渡しになっている舞台を楽しく観劇しました。

最後に演劇堂の大扉が開き、能登の原野が舞台の奥に広がる中、最近忘れかけていた生の舞台の良さを伝えてくれました。来年の「ノトゲキ」もぜひ支援、協力できればと思います。

●北陸3県、団結してパワーアップへ!

石川江古田会では今年9月に予定していた総会・懇親会は残念ながら中止を決定しました。

そんな中、嬉しいニュースも。昨年の福井県からの新会員に続き、今年は富山県からも新会員を迎えることができ、北陸3県の会員が揃うことになりました。

今後は北陸新幹線の全線開通も迫る中、北陸で一致団結し、地域の芸術文化に貢献していこうと一同意気込んでいます。

山形江古田会

総会

山形江古田会の総会、懇親会は今年も中止になりました。6月の第二土曜日、に期日を設けたのには理由があります。「さくらんぼ」の収穫時期に合わせました。暦の関係で、収穫とずれた時もありましたが、今年も一致しました。しかし、中止になり残念です。次回、開催したいと思いますが、状況を考え、結論を出したいと思います。

日芸の思い出の先生

私が、日本大学芸術学部美術学科（彫刻）を受験したのは、柳原義達（彫刻家）氏が教授だったからです。「アトリエ」という美術誌で、柳原先生の文章と作品を見ました。当時、東京へ行くのには時間がかかりましたが、考えた事がありませんでした。入学したら、ほとんどの人が同じ思いでした。柳原先生は大柄で、少ない言葉の人です。自分の作品の事は語りません。当時、云われても、解らなかったと思います。江古田の街も、魅力的です。今は、店が変わりましたが、雰囲気は昔と一緒にです。

柳原先生は亡くなりましたが、私の中では生きています。私は今、「鑄金」の道を歩いていますが、先生との出会いがなかったら今がありません。先生はこう言うに違いありません。「ゆっくり、考えましょう」。

支部長 横倉 晋也（美術・昭和52年度卒）



※皆様は日芸の中庭に存在感たっぷりの鴉のブロンズ像が居るのをご存知ですか？文中にある柳原義達氏の作品「鴉」です。この鴉の兄弟は、宮城県立美術館の中庭にも居ます。是非、見比べてください。

日本大学芸術学部校友会各支部(江古田会)連絡表

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	連絡窓口	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一 放送S52・1977年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保 演劇S32・1957年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘 音楽S54・1979年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛 演劇S53・1978年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一 放送S55・1980年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也 美術S52・1977年度卒	023-631-8040
ふくしま江古田会	酒井 泰彦 放送S59・1984年度卒	090-5353-1820
新潟江古田会	増井 伸一 写真S48・1973年度卒	025-260-5301
東京江古田会	生井 将雄 演劇S60・1985年度卒	090-1844-2908
長野江古田会	江守 健治 写真S47・1972年度卒	026-217-8894
愛知江古田会	藤田 勝 演劇H9・1997年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫 音楽S50・1975年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也 文芸S53・1978年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一 写真S44・1969年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利 映画S40・1965年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志 写真S43・1968年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	後藤 欣久 美術S44・1969年度卒	0985-77-1110
鹿児島江古田会	堀之内 隆 放送S49・1974年度卒	090-3739-7374
中国江古田会	馮 建国 院H9・1997年度卒	—
台湾江古田会	林 舜龍 美術S61・1986年度卒	—
韓国江古田会	イ サンユン 院H8・1996年度卒	—

音楽学科を持続可能な存在に

音楽学科主任
川上 央

令和4年の5月から音楽学科主任を拝命することになりました。この場をお借りして校友の皆様にご挨拶申し上げます。私自身は、芸術学部校友会の常任幹事もやらせていただいておりますので、校友会の重要性を強く認識しております。

私は平成8年に音楽学科作曲理論コースを卒業し、その後、2年間、芸術学研究科の修士課程で勉強を続け、平成10年に当時の助手職として芸術学部で勤務することになりました。当時の芸術学部は江古田校舎と所沢校舎に分かれ、学生の数も今の倍くらいいたような気がします。現在、音楽学科は1学年90人程度ですが、当時は150人くらいの学生がおり、ピアノコースだけでも50人近くの人数が在籍していました。現在はクラシック系のコースでは10名程度の人数になり、若者人口の減少だけでなく、クラシック音楽離れを強く感じております。当時の私は作曲理論コースでコンピュータ音楽を学び、現在は情報音楽コースにて後進の育成をしておりますが、逆に情報音楽コースには全国から多くの学生が集まり、音楽は完全にアナログからデジタルに移行していることがわかります。面白いエピソードとして、入試の際の面接で、受験生にクラシック音楽は好きですかと聞いたところ、昭和アイドルの曲を最近よく聞きますと返答し、クラシックは昭和の音楽と思っている若者がいることに驚きました。高校までの音楽の授業においても、ポピュラー音楽を扱うことは当たり前で、合唱祭ではJ-Popのヒット曲



などを取り上げていることが多いようです。教科書にもクラシックとポピュラーが混在し、我々の世代からするとずいぶんと軽薄になったものだなと思ってしまうのですが、よく考えてみると、小学生などに外国の曲を教えるより、身近な日本の流行曲を教えるほうが、音楽への興味を持たせるには良いのかもしれません。いずれにせよ、現在の若者はどんどんクラシック音楽に触れる機会が減り、国内の音楽大学の受験生は減少の一途をたどっております。

そんな状況ではありますが、それでも日芸の音楽学科は一定の人気があり、全国から音楽を志す若者が集まります。人数が減ったからレベルも下がったのではと心配される方もいらっしゃるかもしれませんが、実は演奏レベルは私が学生だった

ころに比べて格段に上がっております。30年前のピアノコースといえば、ショパンやリストなどロマン派の楽曲を演奏している学生が中心で、その中でもうまい学生はリストの難曲やロマン派後期からそれ以降の作品を演奏していました。現在は印象派以降が主流で、ショパンやリストはすでに高校までに学習してきたというような学生がたくさんいます。圧倒的にこの30年で演奏技術が向上しており、むしろ、本当に音楽を追求しているような学生が割的には多くなっています。ひよっとすると、音楽しかできなくてうちに来たという学生もいるかもしれませんが、どの楽器もこの30年の演奏技術の向上には目を見張るものがあります。これは音楽学科だけでなく、写真や映画、美術やデザインなども同じなのではないでしょうか。国の文化発展は経済発展の後にやってくると言われていますが、まさしく日本の芸術分野はそれを実現しているように思います。その発展を支えているのは、これまでの卒業生らが実績を積み、若者への道を作ってきたということと、日芸のような芸術を専門とする教育機関が常に時代の先端的な芸術教育を行ってきた証であると思っております。校友の皆様が芸術学部を卒業し、それぞれの人生を魅力的に過ごされていることが、後輩への力となります。これからも日芸の後輩にエールを送っていただければ、それがなにより校友会の存在を高めていくことに繋がっていくと思います。どうぞよろしくお願いたします。

写真をとおしてHappyに！

写真学科主任
教授 西垣 仁美

令和3年度後期より2年ぶりに写真学科主任を拝命いたしました。また長く校友会の常任幹事も務めさせていただいております。校友の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

私は昭和58年度に写真学科を卒業し、芸術学研究科文芸学専攻に進みました。当時は専攻分野が文芸学のみで、芸術学部の全学科から文芸学専攻に学生が集まっておりました。そこで写真についての研究も続け「写真の芸術性について」という修士論文を書きました。その翌年度から写真学科に勤務し現在に至ります。人生のほとんどを芸術学部で過ごしてまいりました。

写真学科は、一般的に写真が誕生したと言われる1839年から100年後の1939年に創設され、今年で83年目となります。この間、写真の技術は大きく変わり、フィルムから現在はデジタルが主流となっています。写真学科誕生当初は乾板も使用していました。カメラを扱えるのがごく一部の者であった時代から、ほとんどの方が持つスマートフォンの中に高性能のカメラが内蔵され、誰もが気軽に失敗せずに写真を撮影できるようになりました。それに伴い写真は、記録、伝達に加え、コミュニケーションにも欠かせないツールになりました。現代では総ての方が写真と共にあり、写真なしの生活は考えられない状況でしょう。この事実は素晴らしいことであると思います。

しかしながら、それでも写真には学ばなければ撮れないプロフェッショナルな専門



撮影：柏崎秀実（H2年度卒）
写真学科授業：ポートレート担当

分野があります。スマートフォンでは撮れない写真です。カメラも大きく進歩いたしました。デジタル写真の時代になり、技術も表現も大きく変わりました。写真は学べば学ぶほどにその奥深い世界が見えてきます。また近年ではオルタナティブプロセスいわゆる古典技法と呼ばれる、銀塩でもデジタルでもない写真にも大きな注目が集まっており、魅力的な世界を形成しています。写真学科は時代の変化に対応し、常にフロントランナーを意識してまいりました。

写真は、「いま・ここ」しか写せない、眼前に被写体が必要ということから社会ひいては世界とつながっており潜在的に公共的なものです。よって写真表現はつねに時代と結びついており、写真は時代の最先端と

関わりのあるものです。「いま・ここ」をとおして過去から未来まで、自分の思いや考えを3次元の世界から一瞬を切り取り2次元の平面に時間を止めた世界を創りだします。表現力を磨くために、写真の技術や歴史、写真作品、写真についての考え方を学びます。また芸術学部で他の分野の芸術や仲間に触れることも重要です。芸術学部は感性を磨くためには良き環境です。写真は生涯にわたって生活と共にあるのですから、写真学科で学んだ技術、知識・教養は生きていくうえで役に立つものだと思っています。

また写真のみならず芸術を学んだ者は、ネガティブ・ケイパビリティという「答えの出ない事態に耐える力」が強いそうです。現代は、コロナウィルス感染症で世界がパラダイムシフトを起こし、まさかの戦争まで勃発し、まさに先が見えない状況です。それは芸術の学びと同様です。これといった正解がある訳でもなく、認められるか否かも分からないまま自分を信じて制作に励むことに似ています。どんな状況にあろうとも私達は強く生きていけそうです。

写真の世界は総ての方に開かれております。誰もが制作でき、それを世界に向けて発信できるのが現代です。すべての校友の皆さまが写真を撮り、作品を鑑賞し、楽しんでいただき、写真で人生をHappyに彩っていただければ幸いです。

最後になりましたが、芸術学部および写真学科をこれからもよろしくお願いいたします。



写真学科

■GRIP2022 日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展

6月23日から6月29日にポートレートギャラリー（四谷）で開催されました。出品者は、4年生の石井優希、石川貴暉、佐藤うらら、前田一路、3年生の徐捷、新宮巳美、日座貴大（敬称略）の7人でした。学内で選考された後に、展示方法を再検討し、展示用作品を制作しての発表でした。



■高校生のためのワークショップを2年ぶりに復活

8月5日、6日に江古田校舎で「高校生のためのワークショップ」（デジタルコース、銀塩コース）を定員を半分の15名とし、1日で完結、2日間の実施と形態を変え、コロナ感染症への対策を徹底して実施しました。少しでも大学での授業体験をしていただけるよう内容もリニューアルして取り組みました。

■写真学科の新しい取り組み

★地域貢献企画として、日藝写真館「いつだってハレの日」を6月12日に開催しました。練馬区在住者、練馬区へ通勤・通学する方を対象としてスタジオでポートレートを撮影しました。

★「日藝 大人の写真塾」銀塩写真コースとデジタル写真コースを7月3日に開催しました。

★夏休み！自由研究 小学生のためのワークショップ「光で描こう!!」（フォトグラムコース、デジタルピンホールコース）を8月14日・20日に開催しました。

これらは写真の裾野を広げる目的で行いました。今年はプロトタイプとして実施しました。来年からは本格的に実施します。

■写真学科在校生のこれからの展示

★T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO STUDENT PROJECT

オンラインポートフォリオ展、2022年10月公開予定

★T3東京駅グランルーフ地下一階でのターボリン展示
2022年10月

★日芸祭での写真展示 2022年11月3日～5日

★2022日中青少年写真書画交流展

中国文化センター（虎ノ門）2022年12月開催予定

★Nikon New Generation Photograph 2023

ニコンプラザ東京THE GALLERY 2023年2月14日～2月27日

ニコンプラザ大阪THE GALLERY 2023年3月9日～3月22日

ぜひ、ご高覧ください。

■写真学科公式ホームページ／Twitter

写真学科の直近情報は下記をご覧ください。

公式HP <https://www.nuaphoto.com>

公式Twitter @nichigei_photo



映画学科

■オープンキャンパスが6月26日（日）、7月31日（日）の両日行われました。

今年度は、対面方式・予約制で行われました。映画学科では学科の施設案内、各コースの説明、模擬授業、個別面談等を行い、多くの受験希望者が参加し、映画学科のカリキュラムや模擬授業に耳を傾けていました。また、質問も多く、高校生の受験に対する熱意が伝わってきました。

■毎年12月に開催されている映像表現理論コースの「映画ビジネス」による映画祭は、例年通り行うべく計画しています。今年度も渋谷の映画館で行う予定です。

■コロナ感染症対策のため、昨年度の監督コース、撮影・録音コース、演技コースの卒業制作、3年実習作品を上映する「フォーカイン」は中止となりました。

これらの作品は、毎年3月に行われる「そつせい祭」の時に上映される予定です。

■（お詫び）

前号でお知らせいたしました令和3年度映画学科各賞の中に、昨年度のデータがそのまま残ってしまうという間違いがありました。正しい受賞者は下記のようになります。訂正してお詫びいたします。

第46回映画学科奨励賞（監督）黒柳鼓笛、（撮影）比嘉優介、（録音）宇野有奏、（演技）後藤愛理





美術学科

■今夏「子ども芸術学部」を開始しました！



2022年8月21日、第1回美術学科主催、子ども芸術学部「粘土に絵を描いて、でこぼこ絵画を作ってみよう！」が開催されました。美術学科で行なっている授業を体験してもらい、美術・造形に興味を持ってもらえることを目的としています。開催に際して期間を午前午後に分け、第1期は幼児から小学生低学年を、第二期

は小学生全学年を対象とし、活動を行いました。

今回は、彫刻コースの飯田准教授が、彫刻専攻で行なっている「石膏どり」という作業から、陰刻造形をテーマに活動を行いました。子どもは思い思いに粘土に引っ掻いたり、盛り付けたりしながら半



立体の絵を完成させました。その後、粘土に石膏を流し込み、「型どり」を行う過程で、美術学科の施設を見学し、彫刻の機械や版刷り機などの見学は保護者も含め楽しんでいただけたようです。アトリエに戻り凸凹になった作品を鑑賞し活動を終了しました。これからも定期的に活動を行なっていく予定です。

■鞍掛純一＋日本大学芸術学部美術学科彫刻コース有志「脱皮する時」公開・「大地のおくりもの」ワークショップ開催

2022年、1年の延期を経て第8回「越後妻有 大地の芸術祭2022」が開催されました。鞍掛教授が2015年から制作を続けている作品「大地のおくりもの」。奴奈川キャンパス内に彫刻刀で描かれる、里山の風景を一緒に作るワークショップが8月、期間を2回に分け行われました。



音楽学科

音楽学科主催演奏会

(令和4年11月～令和5年3月開催分)

●第51回ピアノコンサート

11月16日(水) 17:00開演

光が丘 IMA ホール

●第34回ウィンドオーケストラ定期演奏会

11月22日(火) 19:00開演

杉並公会堂 大ホール

●第53回オペラ公演

12月2日(金) 17:00開演

光が丘 IMA ホール

●第139回定期演奏会

12月19日(月) 19:00開演

杉並公会堂 大ホール

●卒業演奏会

3月16日(木) 北とぴあ・つつじホール

●情報音楽コースSWITCH2023

3月18日(土)・19日(日)

江古田校舎

上記演奏会は入場無料となっております。

新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、中止または延期させていただく可能性があります。その場合は、音楽学科ホームページにて発表いたします。





文芸学科

■脚本家・吉田恵里香さん（文芸学科卒）による

『恋せぬふたり』が第40回（2021年度）向田邦子賞を受賞

『恋せぬふたり』（2022年1月10日～3月21日／NHK総合）は、人を好きになったことがない、なぜキスをするのかわからない、恋愛もセックスも分からずとまどってきた女性が、恋愛もセックスもしたくない男性と出会い、「恋人」や「夫婦」や「家族」といった既存の言葉でくるることのできない同居生活を始める物語です。

受賞スピーチで吉田さんは、「このドラマを通じて、アロマンティック・アセクシュアルを認知していただけたことがうれしく、テレビドラマって、まだまだやるじゃん！と思っております。その一方で、性的マイノリティをネタとして消費してしまうことの危険性も同時に感じており、今後もアロマンティック・アセクシュアルに限らず、正しい知識で、生きづらさ、生きにくさを感じている方に希望を与えられる、背中や肩にポンと手をおける作品を目指していきたいと思いますし、もっとそういう作品が増えていけばいいな、と思います。私もベストを尽くします」と今後の展望を語りました。

■渡辺あみさんが「第4回 白鳥庭園俳句大賞」最優秀賞を受賞

渡辺あみさん（渡邊あみさん・文芸2年）が、俳句「それ以外に雲に風船の白」で「第4回 白鳥庭園俳句大賞」最優秀賞を受賞しました。詳細はサイトよりご覧いただけます。

<http://shirotori-garden.jp/haiku/>

■壹岐悠太郎さんの作品が、『現代詩手帖』2022年7月号「新人作品」欄に掲載

壹岐悠太郎さん（文芸1年）の詩作品「都内LDK、敷金ナシ礼金ナシ」が、『現代詩手帖』2022年7月号（思潮社）の「新人作品」欄に掲載されました。

■『連句年鑑』に昨年度の浅沼ゼミⅢの連句が掲載

日本連句協会が刊行する『連句年鑑』（2022年）に、昨年度の浅沼ゼミⅢで巻いた連句が掲載されました。オン座六句「猿腕」の巻は、ゼミ雑誌で読むこともできます。



演劇学科

■令和4年度の演劇学科

演劇学科の公演をいつも応援頂きありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、演劇学科公演は観客数を制限した学内限定公演としておりましたが、昨年度後期からはPCR検査を含む予防対策を徹底し、観客数の制限解除及び学外者の来場を再開させました。令和4年度前期も全学科公演を無事終了させ、後期も同様に学生の学びの場、日藝における舞台創造の場を守るべく準備しております。

未だ先行き不透明な社会情勢ではありますが、演劇学科は以下専任教員、助手、学生と共に舞台芸術の研究、教育に前を向いて頑張って参ります。校友の皆様の変わらぬご支援を引き続きよろしくお願い致します。また、ご予約の上、学科公演へ是非ともご来場頂き、ご声援の代わりに大きな拍手を在学生へお送り頂きたいと思ひます。

奥山 緑（教授）	主な担当授業「演劇概論Ⅰ/劇場論Ⅱ」
尾崎弘征（教授）	主な担当授業「音響演習/音響実習」
小林直弥（教授・学科主任）	主な担当授業「演劇史Ⅰ/舞踊学」
中野成樹（教授）	主な担当授業「演出演習/演出論」
范 旅（教授）	主な担当授業「舞踊特殊実習/総合実習」
藤崎周平（教授）	主な担当授業「演劇概論Ⅱ/演技論」
松山 立（准教授）	主な担当授業「演劇史Ⅱ/演技実習」
山口英峰（准教授）	主な担当授業「舞台監督演習/総合実習」
青木拓也（助教）	主な担当授業「舞台美術実習/総合実習」
南 香織（助教）	主な担当授業「演劇基礎演習/照明実習」

秋山舜稀（助手）	大迫美乃莉（助手）	加藤響之介（助手）
田中幸乃（助手）	能勢芽衣（助手）	渡辺菜菜（助手）



令和4年度採用助手
大迫 美乃莉 加藤 響之介

10月から3月までの間に演劇学科公演が9公演予定されています。演劇学科HP・Instagram・Twitter、又は下記にお問い合わせください。

演劇学科事務室
03-5995-8260



演劇学科HP



演劇学科 Instagram



演劇学科 Twitter

※フォローよろしくお願い致します。



放 送 学 科

■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

放送学科と練馬区が共同して実施している情報教育推進事業“中学生のための「情報番組制作ワークショップ」”が開催されました。

コロナ禍で3年振りの開催となりましたが、練馬区在住の中学生20名が集まり、放送学科主任・鈴木康弘教授の指導のもと、企画立案から取材・編集・収録を行いました。「練馬区のここが知りたい」をテーマに、東映アニメ・養蜂場・地震対策・区の名前の由来など、9日間かけて情報番組を制作しました。8月21日には放送学科の第1スタジオで収録を行い、番組を完成させました。

このワークショップは中学生たちが実際に番組制作に取り組むことでメディア・リテラシーを学び、職業体験を行うことを目的としています。

また最終日の8月22日には、参加した中学生だけではなく一般の方々も招待し「情報リテラシーについて考える」をテーマに鈴木教授が講演を行いました。

■石川県小松市立高校との合同授業を実施

石川県小松市と日本大学芸術学部との包括協定に基づき、2019年から行われている市立小松高校との合同授業を、放送学科が中心となり、8月18日と26日の2日間、オンラインで行いました。

星野裕教授監修のもと、8月18日に安部裕教授が動画撮影講義を、石毛みさ子助教がナレーションの書き方の講義を行いました。また写真学科の田中里実教授が写真の撮り方の講義を行い、この3つの講義をもとに、高校生たちにスマートフォンを使って「小松のこれ」を動画と写真で撮影してもらい、説明のナレーションを考えてもらいました。

高校生たちが撮影した動画と写真、ナレーションを組み合わせ作品化し、26日には作品の上映会と講評を行いました。技術員の協力を得て、オンライン授業のノウハウを活かした合同授業となりました。

■2022年度前期授業に関して

2021年度同様「実習・演習科目は対面、講義科目はオンライン」で行いました。昨年度はゼミなど、オンラインで行った実習・演習科目もありましたが、今期は多くが対面となり、講義科目も一部対面で行いました。日藝祭の準備などを対面で行う学生も多く、活気が戻りつつあります。



デ ザ イ ン 学 科

■中村至男展を日藝A&Dギャラリーで開催！

日藝賞を受賞されたグラフィックデザイナーの中村至男さんの展覧会を日本大学芸術学部 A&Dギャラリーで開催します。2018年に亀倉雄策賞を受賞し一躍脚光を浴び、広告、書籍、パッケージ、ゲームデザイン、児童図書館などで知られる幅広い活動を母校でご覧いただく貴重な機会となります。会期は日藝祭開催期間を含む、11月3日（木・祝）～11月17日（木）です。

■中高生を対象に「ニチゲイ デザイン学」

デザイン学科では「ニチゲイ デザイン学」として中高生を対象にデザインのエッセンスを学ぶワークショップやシンポジウムを年間を通じて企画、開催中です。これまで〈気持ちを視覚伝達する「LINEスタンプ」を考えよう。〉、〈身体でいろいろなものを測ってみよう〉、〈未来のアップサイクルなショップを考えよう！〉などを行ってきました。アーカイブや、今後の開催予定、お申し込みは、日本大学芸術学部デザイン学科のホームページから「ニチゲイ デザイン学」をご覧ください。

<https://design.art.nihon-u.ac.jp>

■和光銀座本店にて学生の制作したウィンドウデザインが公開
デザイン学科4年青木美紅さんが演習授業スペースデザインⅣの課題で制作したブライダルフェアのウィンドウディスプレイ作品が和光銀座本店西ウィンドウスペースにて8月18日から31日まで公開されました。

■笠井則幸教授がGraphis Design Annualで受賞

Graphis Design Annual 2023にて、笠井則幸教授が制作した「松原寛と日藝百年」のポスターがGold winnerを、日藝百周年記念誌のデザインがSilver winnerを受賞しました。

■若原一貴教授が設計した住宅が新建築住宅特集に掲載

新建築住宅特集9月号に若原一貴教授が設計した「小金井の住宅」が掲載されました。

■ddd特別対談に池田光宏教授が出演

京都dddギャラリー企画（公益財団法人DNP文化振興財団）の特別対談オンライントークに池田光宏教授が出演しました。お迎えしたゲストは大塚いちおさん（イラストレーター／アートディレクター）。9月より公益財団法人DNP文化振興財団のyoutubeチャンネルにて配信されております。

日々是好日、会長日記

田上 竣詞

8月のある週末、妻との会話。

ある週末の昼下がり、居間で一人テレビを観ていると、妻が今週はノブ君が来るんだから、タカちゃんと。

気の無い返事で、あっそう。

日曜日はウナギよ！ 菊川予約したから、いいわね。会計はあなたよ！

えっ、どーゆうこと？ 生活費では無いの？ と聞こえないように小さな声でつぶやいた。

月曜日はお家でステーキだからね！ 分かった？ あなた、ちょっと、聞いているの？

ホント忙しいんだから、今日は浅井さん家に行かなきゃ、タカちゃんのティアラとブーケをオーダーしたんだから。

フーン、そうなんだ、何に使うの？

前から云ってるでしょ。日曜日はノブ君たちの結婚記念写真撮影だって！

(訳あって結婚式を挙げられずいた息子夫婦)

ふうーん、日曜日はウナギで月曜日はステーキ？ 凄いねそれ。

予約はしておいたから、、、
えっ、予約したんだ。いつも、何もしないのに(独り言)
で、今からどこに行くんだっけ？

浅井さんちと云ったでしょ。
今日は少し遅くなるから。

あなた、夕食は自分で何か食べてね。

えっ、息子にはウナギ、ステーキ？ どーゆうことそれ。
そうなんだ、おれの飯はどうでもいいんだ、と今更ながらに自分の立場を再確認。

妻の顔を恐る恐る見てみたら、目が星飛雄馬になっていた！
息子にはいつか伝えよう、お前もいつかはそうなるよ！



松島先生の

ひとりごと

松島 哲也

今から11年前、サバティカルで80日間世界一周の研修時の記憶である。ヨーロッパの諸国、アメリカのいくつかの都市の関連大学施設や専門領域の映画スタジオなどを視察した。東日本大震災があった年の夏から秋のことである。

どの街も風が吹き、水が流れていた。趣味を持たない私の唯一の楽しみは公園で人々の営みや言葉はわからないが表情の奥にある感情を観察することだった。思い込みであるが、酒場と公園を回ればその国の実感が少しは理解できるような錯覚に浸れる。もちろん好きなアルコールにも浸れるわけで一石二鳥である。子供、若者、家族、老人たち…今も鮮明に浮かぶ断片は確かな記憶として残っている。

時の単位を10年で区切るとあれから様々な変化が日本



や世界を揺らしている。あの公園近くの川が氾濫し、通り過ぎた草原は記録的な熱波と干ばつに見舞われている。さらに訪れた近隣国は戦火に包まれている。風と水は今後も乱流していくのかと無力感に包まれ、ふと夜空を見上げるといくつかの星が見えた。

単位を135億年とすると、最新の宇宙望遠鏡は悠久の過去をデータ化してくれる。宇宙の原始的な時間軸の光を観測するとは驚きである。理論上は135億年前の星の光のデータが今、認知された事になる。今年は日本も猛暑であった。

日常の出来事に一喜一憂しながら公園を散策し、水や風の流れ、人の営みを観察した。時の流れの中では一瞬にも満たない我が人生だが、少しだけ他者に想いを馳せたこの夏である。

「風はどこで生まれ、どこへ向かうのか…」20年前に作った映画の登場人物が百年後を夢想して語る台詞である。半径10メートルのリアルだけではなく、及ばずともより大きな半径で現在と繋がる未来を想像する自由だけは手放さずに歩きたいと思う。さて、今度の休日はどこの公園に出かけようか。そしてどんな酒を飲もうか。

ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

運動部連盟 徒歩旅行部

徒歩旅行部は徒歩での旅行を中心に、アウトドア・インドアを問わず、幅広い活動を行う自由度の高い公認部会です。現在の部員数は55名で日芸全学科の学生が所属しており、学科・学年を超えた広い交流が盛んです。

現在はオンラインと対面のハイブリッドという形で、積極的に活動を行なっています。昨年度は高尾山ハイキングや日芸祭へ参加しました。今年度は山手線一周企画や江古田キャンパス七夕祭りへの参加（集合写真）、さらに夏季休暇には日大軽井沢研修所を利用した夏合宿の開催など、許可された期間内で定期的な対面活動を実施しております。オンラインでは各自授業後の夜にズームなどで集まり、次のイベントに向けた話し合いや、ゲーム等を通じて親睦を深めています。今後も日芸祭や冬合宿等、様々な活動を行なっていく予定です。

最後に、今年度の日芸祭では3年ぶりの飲食屋台を企画しております。現在、感染症対策への配慮に万全を期しながら、準備が進められています。日芸祭にお越しの際はぜひ、徒歩旅行部の屋台へお立ち寄りください。

（※新型コロナウイルスの感染状況によって入場者を制限する場合があります。）

徒歩旅行部 主将 松本祐典（写真学科3年）



文化部連盟 軽音楽部

軽音楽部では、コロナ禍により、今まで対面で行っていた、週に一度の活動を全てオンラインに切り替えて行っています。内容としては、zoomを用いて活動方針を決めていく会議や部内の仲を深めるための交流会をしています。

新歓では、対面での活動が難しかったため、日芸軽音楽部のTwitterやInstagram、YouTubeなどのSNSを用いて新入生に対して宣伝を行いました。

また去年の芸祭では、放送学科の教室を借りて、無観客でライブを行い、その様子をYouTubeLiveで生配信しました。

さらに、12月末にはコロナが一時的に収束し、大学からの活動規定も緩和されたため、コロナ対策を撤退した上で、外部の音楽スタジオを借りて小規模のライブを行う事が出来ました。

コロナ収束後は、完全にコロナ前の活動に戻るのではなく、対面である必要がない場合にはオンラインに変更するなどして、対面活動とオンライン活動を併用して進めていきたいと考

えています。そして、コロナ禍では出来なかった、合宿やイベント、観客を入れたライブなどをまた実現出来たら良いなと思っています。

軽音楽部部長 美術学科3年 桂希春



学部の優秀者

日本大学学長賞・優等賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など 卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表がありました。

●日本大学学長賞（学業部門）

○映画学科 渡邊 円

●日本大学芸術学部優等賞（学業部門）

○写真学科 若林 望江、角口未夢生
細田倫太郎、尾之内麻里

○映画学科 比嘉 優介、大門 倫子
大倉 望、渡邊 円

○美術学科 吉田 萌木、佐伯あかり
小林 紗己、熊井みくに

○音楽学科 原田 智美、岡本 唯子
坂田 美彩、増山美咲希

○文芸学科 桒澤 祥子、深井 瑛滋
池鯉鮒夢乃、友添 あみ

○演劇学科 森口友愛子、山田 朋佳
加藤 里奈、滝田 礼那

○放送学科 二木 統希、齋藤 優
松本ルミナ、篠崎 道真

○デザイン学科 長谷川恵利菜、竹内 彩乃
上里くるみ、小津創太郎

●芸術学部長賞（学業部門）

○写真学科 橋本 理生、堀内 可愛
角口未夢生、八城 寛武
鬼原 愛佳

○映画学科 大門 倫子、柴田 桜子
大倉 望、大竹 史花
秋元 悠真

○美術学科 吉田 光甫、杉山 理香
関 佳奈子、成田 華蓮
ZHANG JIALIANG

○音楽学科 井口 拓海、吉原 詩音
原田 智美、田邊 七星
熊倉 響希

○文芸学科 菅野 汰臣、船津優紀菜
進藤 彩、石川 晃帆
後藤なゆみ

○演劇学科 橋本 珠里、加藤 里奈
池村 爽、大迫美乃莉
坂本 沙季

○放送学科 大野智二郎、澤川 果梨
富士川ひなた、中野みなみ
菊地 優花

○デザイン学科 長谷川恵利菜、上里くるみ
齋藤 美優、JI SIJIE
横山 奈々

●芸術学部奨励賞

○写真学科 知念 大成

○映画学科 宮脇 千聖

○美術学科 切田久美子

○音楽学科 松本はるか

○文芸学科 印南 翔矢

○演劇学科 安部 晴夏

○放送学科 嵐 雅椰

○デザイン学科 佐藤 麻衣

●金丸重嶺賞

○写真学科 高橋 直暉、齋藤 千春
村井 玲奈、尾之内麻里

●渡辺俊平記念賞

○映画学科 柏崎 茜

●呉正恭賞

○放送学科 大槻 雄大

●川野希典賞

○演劇学科 福原 恵音

●筈見有弘賞

○映画学科 日原 朋哉

●大竹徹賞

○映画学科 福岡佐和子

●八木信忠賞

○映画学科 吉田 夏菜

<大学院>

●日本大学芸術学部湯川制賞

○文芸学 高橋 実里

○映像芸術 坂口健一郎

○造形芸術 東尾 文華

○音楽芸術 石村 頼史

○舞台芸術 SONG SHIXIAN

●日本大学芸術学部澤本徳美賞

○文芸学 該当者なし

○映像芸術 桑名 梨奈

○造形芸術 QIU MENGYUN

○音楽芸術 船越美奈代

○舞台芸術 YANG TIANLI

寄付のお願い

前号で寄付を募ったところ、多数の卒業生から寄付を頂きました。心より御礼申し上げます。引き続き皆様からの寄付を募っています。1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。寄付金は校友会活動に有効に使わせて頂きます。振込先などのお問い合わせは日芸校友会事務局まで。

住所変更等のご連絡につきまして

住所等の変更がありましたら校友会事務局までご連絡ください。市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡お願いいたします。

校友会事務局 電話 (03) 3554-5363 メール ekoda.koyu@gmail.com
HP <http://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

(トップページの"CONTACT"より「登録情報の変更」フォームにご入力ください)

会報の封筒の変更につきまして

今号より会報発送の封筒をビニール包装に変更しました。校友会は校友会員の皆様からの会費で運営しています。大切な予算を適切に活用するため、校友会報のデジタル化も視野に入れて改善を進めたいと思います。今後は会報の受け取り方法について郵送もしくはデータのどちらの方法をご希望されるかアンケートを取りたいと思っています。

会報誌委員会より

念願の林理事長の原稿を、なんとか頂戴することが出来ました。日大再建のために問題山積で超多忙の中、原稿を書いてくださいましたことを心より感謝致します。

編集後記

6月18日に宮崎日大、8月6日に長崎日大を訪問し、コロナ禍でしばらく対面中止になっていた付属高校の進学説明会をしてまいりました。どちらの高校も、校内を巡って芸術学科やデザイン美術科の教室が近づく、それまで整然としていた廊下にイーゼルや作品が散在し、急になじみのある空気がただよってきます。説明会では、表現活動にいそむ生徒たちの反応も良く、いずれ日芸のキャンパスで学ぶ人になってほしい思いを強くしました。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会報・第109号

2022年秋季号 ● 令和4年10月発行 ●

非売品

不許可転載

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、鯉江 充、青木 敬士
- 表紙 4年 青柳有華『ONLY YOU』
銅版画 29×24cm
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

●発行所

日本大学芸術学部校友会
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

URL : <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

メールアドレス : ekoda.koyu@gmail.com



2023年度一般選抜A個別方式について

一般選抜A個別方式第1期

【第1週】

学科	試験日	試験場所
写真学科	2月7・8日(火・水)	芸術学部校舎
美術学科		
音楽学科		
演劇学科		
放送学科		

【第2週】

学科	試験日	試験場所
映画学科	2月14・15日(火・水)	芸術学部校舎
美術学科		
文芸学科	2月14日(火)	
デザイン学科	2月14・15日(火・水)	

入試博覧会について

日時	2023年3月18日・19日(土・日)
内容 (予定)	●個別進学相談コーナー

※当日は日藝の卒博を実施していますので、学生の卒業作品やキャンパスの雰囲気もご覧いただけます。

入試情報に関する詳細は芸術学部ホームページをご確認ください。
日本大学芸術学部ホームページ <http://www.art.nihon-u.ac.jp>

